

山口県感染症発生週報

(第52週:平成24年12月24日～12月30日)

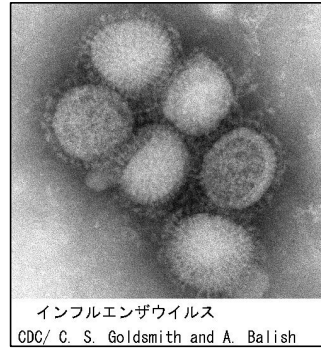
1 全数把握感染症

【2類感染症】

◆結核: 第46週追加:1例(柳井)。 第51週追加:1例(岩国)。
第52週:3例(下関、山口、長門)。

【5類感染症】

◆アメーバ赤痢: 第52週:1例(防府)。



インフルエンザウイルス
CDC/ C. S. Goldsmith and A. Balish

2 定点把握感染症(5類感染症)

(1)特記事項

◆インフルエンザ: 報告数は先週から約2倍に増加し、流行開始の目安となる定点当たり1.0を上回りました。地域別でも多くの地域で定点当たり1.0を上回っています。迅速検査では、A型81例、B型8例(岩国4、周南3、山口1)、臨床診断14例でした。また当所で、第52週の検体についてPCR検査を行った結果、AH3(香港型)が1例検出されています。今後さらに増加することが予想されますので注意が必要です。

◆RSウイルス感染症: 例年冬期に流行がみられますが、今年はかなり早い時期から流行しています。報告数はほぼ横ばい状況で推移しています。乳幼児を中心に引き続き注意が必要です。

◆咽頭結膜熱: 下関、長門、萩はやや多くみられます。【警報レベル=長門(5週目)】※

◆感染性胃腸炎: 第49週に警報開始基準値の定点当たり20を上回り、山口県は12月13日に流行発生警報を発令していましたが、今週警報終息基準値の12を下回りました。地域別にもすべての地域で減少していますが、引き続き注意が必要です。【警報レベル=周南(6週目)、萩(4週目)、山口(5週目)】※

◆水痘: 第44週(10/29～11/4)以降急増し、今週は先週とほぼ同程度でした。12月から7月にかけて多くみられる疾患ですので、注意が必要です。【警報レベル=長門(新)、注意報レベル=萩(新)】※

◆マイコプラズマ肺炎: 報告数はやや多く8例でした。全国的にも例年と比較して多い状況が続いています。

※警報レベル・注意報レベルの基準値詳細についてはHPをご覧ください。
<http://kanpoken.pref.yamaguchi.lg.jp/jyoho/report2012/keihotyuuhiho.php>

(2)週別発生状況

疾患名	50週	51週	52週	疾患名	50週	51週	52週
インフルエンザ	58	52	103	百日咳	0	0	0
RSウイルス感染症	98	89	63	ヘルパンギーナ	8	5	1
咽頭結膜熱	26	32	20	流行性耳下腺炎	10	17	4
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	197	184	139	急性出血性結膜炎	0	1	0
感染性胃腸炎	986	947	508	流行性角結膜炎	5	4	3
水痘	119	134	128	クラミジア肺炎	0	0	0
手足口病	10	5	11	細菌性髄膜炎	0	0	0
伝染性紅斑	6	0	2	マイコプラズマ肺炎	7	4	7
突発性発しん	39	24	24	無菌性髄膜炎	0	0	0

(3)地域別発生状況

疾患名	下関	岩国	柳井	周南	防府	山口	宇部	長門	萩	全体
インフルエンザ	26	25	3	12	8	11	13	5	0	103
RSウイルス感染症	11	5	10	9	4	3	8	11	2	63
咽頭結膜熱	12	3	0	0	1	0	0	2	2	20
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	41	7	4	31	7	26	10	10	3	139
感染性胃腸炎	102	32	18	173	18	66	67	5	27	508
水痘	22	15	2	24	8	17	14	16	10	128
手足口病	6	0	0	1	0	1	2	1	0	11
伝染性紅斑	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
突発性発しん	6	1	1	8	0	2	4	0	2	24
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ヘルパンギーナ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
流行性耳下腺炎	1	0	0	3	0	0	0	0	0	4
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	1	0	1	0	0	0	0	1	0	3
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	3	1	0	0	3	0	7
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

3 その他

・アデノウイルス急性咽頭扁桃炎の報告が多い週が続いています。